

【石岡市】 校務DX計画

【現状】

石岡市では、令和4年から校務支援システムを導入し、校務のペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきている。しかし、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの見直し、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の見直しを進めてきたものの、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

令和6年度～令和9年度を計画期間とする石岡市総合計画第2期基本計画においても、学校のICT活用や働き方改革により、教職員の時間外勤務時間の平均が月35時間以内の学校を100%にするという目標を掲げており（R5実績79%）、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえ、これらの課題について早急に解決に向けて検討を進める必要がある。

【課題】

（1）クラウドツールの未活用

- ・石岡市では校務システムやGoogleドライブ等のクラウドツールを活用した学習等が少しずつ進んでいるが、校務としては生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり、学校からのお便り等、学校と保護者を結ぶクラウドツールの活用が完全に移行しておらず、電話対応や書類の印刷・配布など教職員の負担となっている。
- ・物理サーバによる運用を行っているため、教職員は職員室内での業務が必要となっており、短時間の事務手続きであっても必要に応じて休日出勤をせざるを得ない状況となっている。
- ・学校内の会議で使用する書類の印刷・配布や修正時の手直しによる再印刷など教職員の負担が大きい状況となっている。

（2）FAXでのやり取り・押印の見直し

- ・一部業務においてFAXでのやり取りが慣行として行われている状況である。
- ・教職員が教育委員会等へ提出する事務手続きは完全にクラウド化されておらず、一部書類での提出となっている。また、責任者による押印等が必要であり、“押印待ち”の時間が発生している状況である。

（3）校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

- ・USBを使用する際の事務手続きによる業務負担の増加、USBの紛失リスクや静電気によるデータ損壊といったことも懸念される。
- ・生徒の欠席・遅刻等に関して保護者から一部、電話で受け付けており、教職員が別途校務システムへ入力し、管理者へ報告をしている状況であり、教職員の負担となっている。

(4) 校務パソコンの有効活用

- ・令和6年度に校務パソコンやサーバ等の機器を更新し、センターサーバ化することで共有フォルダを各校で閲覧等ができるようになったが、市執務室内からのアクセスができないため、より効率的な方法を検討する必要がある。

(5) 校務DXの更なる推進へ向けた取組

- ・生成AIの使用については文部科学省初等中等教育局における「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」を踏まえ、各校それぞれで活用されている。しかし、生成AIの正しい活用方法への理解が不足しており、教職員にとっては情報漏洩等のリスクなどの不安が先行している状況であることから、積極的な活用が進んでいない。

【取組方針】

現状と課題から石岡市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

- ・保護者向け連絡ツールを活用し、保護者からの欠席・遅刻等による電話対応の削減を図り、教職員の日常業務の負担軽減を図る。
- ・保護者向け連絡ツールを活用し、学校からのお便りなどの印刷・配布の廃止を目指す。それにより、教職員の日常業務の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。
- ・会議で用いる資料等は共有フォルダ等の活用により、印刷等の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

- ・FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。ただし、事故や緊急時などの急を要する事案については当面は利用できるものとする。
- ・押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、規則等の改正により押印を必要とする書式の削減に努める。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

- ・USBを含む外部記録装置を原則使用禁止とし、紛失による情報漏洩リスクや情報の散在による漏洩リスクの軽減を図る。
- ・校務支援アプリ等を活用し、保護者からの連絡をアプリで受け付け、管理者もアプリ上から確認できる仕組みを導入することで、教職員の業務負担軽減を図る。

(4) 校務パソコンの有効活用

- ・市と各校とのやりとりをより円滑化するため、執務室内からの校務系ネットワークへのアクセスができるよう機器の設置等を検討する。

(5) 校務DXの更なる推進へ向けた取組

- ・生成AIの校務での有効活用に向け、国のガイドラインに基づいた活用を推進し、県域外の好事例等の情報収集や講師を招いた研修を教職員向けに実施する。